

古本市のご報告



本年度2回目の古本市を8月19日(土)に、ボランティアの皆様や商工会事務局のご協力により、三水会センター会議室にて、無事開催することができました。今回の収益は、寄付を合わせて\$ 1,405となりましたこと、ここにご報告申し上げます。古本市にご来場いただいた皆様、ボランティアの皆様、また貴重な本をご寄付くださった皆様にはこの場をお借りして心よりお礼を申し上げます。この度の収益金は生活情報委員会の活動、お助けマップ、あそぼ一会、絵本読み聞かせの会、三水会クラブ、ショーイングジャパンの活動費用、図書館の備品並びに図書館の新しい書籍の購入に充てさせていただきます。

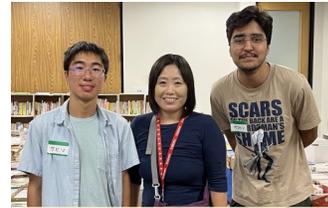
今回の古本市には43名のボランティアの方々が手伝いに来てくださいました。多くの皆様より古本市にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。ボランティアとしてご興味のある方は、是非商工会事務局 (sansuikai@jbahouston.org) までご連絡ください。



後片付けボランティアの皆さん

「沢山いい本があってびっくりしました。」
 今回古本市のボランティアに駆けつけてくれたザフィルさんが話をしてくれました。ザフィルさんはクレメンツ・ハイスクールの2年生。クレメンツ・ハイスクールは千葉市の稲毛高校と交換留学プログラムがあり、日本に興味がある生徒さんが多く在籍しています。コロナでずっと延期になっていた千葉市との交換留学プログラムはようやく今年6月に復活して、ザフィルさんは待ちに待った日本に行ってきました。思い出に残るのは稲毛高校の学生さんとディズニースーと一緒に遊びに行ったことだそうです。特にディズニースーはアメリカにはないので、行ってみたかったとのこと。ザフィルさんの家族もまた日本食が好きで、週末のお昼にざるそばを家族でよく食べるほどだそうです。

クローズアップ! 古本市の舞台裏 日本語大好き、ボランティアのザフィルさんとケビンさん



左から: ケビンさん・根本委員長、ザフィルさん

ザフィルさんが日本語を習うきっかけになったのはアニメです。字幕付きで観れる**クランチロール**はザフィルさんのお気に入りアニメサイト。そのサイトで最近始まった毎週アップロードされる「ワンピース」というアニメシリーズが楽しみになっているのだそうです。

教科書やドリルなどを利用した授業のほかに、クレメンツの日本語クラスには楽しいプロジェクトも組み込まれています。「桃太郎」や「かぐや姫」の紙芝居にみんなで挑戦して、発表したりもしたそうです。クレメンツの日本語コースはレベル1～レベル4までの4つのクラスがあります。ザフィルさんは新学期から授業中は英語で話すことを禁止されているというレベル4のクラスに挑みます。

ザフィルさんの先輩で現在3年生のケビンさんは、1年生のときは別の外国語を取っていたようですが、2年生から日本語の魅力を知り、日本語コースを取り始めたそうです。学校を卒業してからの将来についてはまだまだ思案中のようですが、日本に関わる仕事や日本語を必要とする職業で将来活躍されるかも

しれません。
 (生活・情報委員長 根本真樹子)

教育コラム アメリカに住む日本人の大学受験

一口に「アメリカに住む日本人の大学受験」と言っても、多種多様な形式があって、どこから調べたらいいかわからない、という方も多いのではないのでしょうか。そこで今回は、帰国入試に絞ってその概要をお話します。

【帰国子女枠の受験資格】

帰国子女枠での受験資格は、大学によって微妙に異なりますが、大まかなところは以下になります。

まず滞在年数ですが、「2年以上」としている大学がほとんどです。ただしこれは、実際にはカレンダーで丸々2年である必要がなく、2学年以上と読み替えられます。例えば11年生の初め(8月)から卒業(5月)までの実質1年10か月であったとしても、「滞在2年以上」の要件を満たすことになります。ただし、その2年のうちに卒業年度を含むことを要件としている大学も多いので注意が必要です。

「保護者帯同の場合のみ」という条件のある大学も散見します。つまり単身留学では受験資格がない、ということです。これは、保護者の任期切れの後、(不法ではない)何らかの形で半年残留して卒業した、という場合にまで厳密に適用されることは少ないようです。

ただしこれらの情報は大まかな傾向に過ぎず、詳細は大学によって異なるうえ、毎年のようにどこかの大学で大きな変更があったりするので、出願にあたっては必ず各大学の要項で確認してください。

【4月入学を目指す場合】

アメリカから帰国する高校生が目指すもっとも一般的な進路が4月入学のパターンです。この形では、例えばテキサスの場合、5月に卒業して帰国すると早速出願の準備に入り、9月の初旬から早慶の入試が始まります。その後、いわゆるGMARCHその他の私立大、そして国公立へと続いていきます。

このときほとんどの大学でモノを言うのがTOEFLのスコア、そして小論文です。SATを必要とする大学は必ずしも多くありませんが、いわゆる一流大学の多くがSATを求める傾向にあり、もちろん高いスコアが合格への条件となります。理系の場合にはこれに数学・理科が加わります。

気を付けてほしいのは、「帰国子女枠は入りやすい」という神話を安易に信じてしまわないでほしい、ということです。いわゆる難関大学は相当な狭き門ですし、その門は年々狭くなりつつあります。努力なくして栄冠は得られません。早めから計画的に準備を進めていくことが肝要です。

【9月入学を目指す場合】

9月入学のプログラムは、ほとんどが英語プログラム(英語で学位を取得するコース)ですから、帰国後も英語で大学生活を送り、さらに英語を伸ばしたいという人にお奨めです。書類選考やオンライン面接だけで合否が決まるため、日本へ行かずに受験できる大学が多いのも大きな特徴です。

ただし、当然のことながら入学にあたって高い英語力が求められるので、TOEFL、SATなどで高得点を取っておく必要があります。4月入学ではSATの提出を求めない大学でも、9月入学だとSATが必須となる、というようなケースもありますし、双方でSATの提出を必須とする大学でも、9月入学の方がボーダーが高めになることが多いようです。

書類選考が中心となるので、出願書類、特にエッセイが重要になることは言うまでもありません。自分の関心の対象に対して高校生なりの深い洞察があることを、アカデミックな英語で明晰に示すことが求められるので、これについても時間をかけて取り組む必要があります。

【まとめ】

以上、アメリカの高校生の帰国子女枠入試についてごく簡単にまとめました。結局はしっかり調べるとともに、きちんと勉強して臨むことが王道なのですが、ある程度、道筋が見えてると努力もしやすいので、そのお役に立てばと思います。具体的なケースについては直接ご相談ください。

(駿台ヒューストン校 大高 仁志)